ラルシュコミュニティー憲章

「わたしたちは共に、知的障がいのある人もない人も、国際連盟に属するコミュニティーの中で生活を分かち合っています。」”*

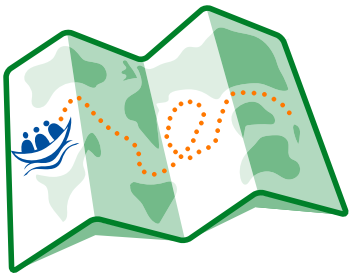
わたしたちは、連盟全体から寄せられた体験を読み直し、分かち合い、集めることで、この憲章を共に作りました。この過程によって、わたしたちが共有する日々の生活の喜びと課題を知ることができました

この憲章の目的は、わたしたちの大きな多様性の中で、わたしたちを結びつけているすべてのものを表現することです。この憲章は、わたしたちの使命である「**相互に変化する関係をとおして、知的障がいのある人の賜物を明らかにすること**」を、より一層意図的かつよく知らせるように呼びかけています。*

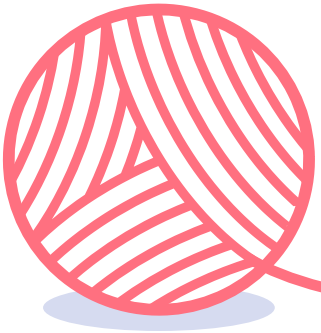
この憲章は、すでに公表されている「アイデンティティーと使命」*を基盤に記され、「国際ラルシュ国際連盟の会憲」とともに読まれるものです。

この憲章は、日常生活の中でそれについて考察し、具体的にそれを生きようとするときに、生き生きとしたものになります。

この憲章は、わたしたちの発想と行動の道しるべです。共に進むべき道を示す地図のようなものです。



*「アイデンティティーと使命」は、2008年コルカタでの国際連盟総会で、わたしたちの歩みの方向性を明らかにする声明として採択されました。



1. 私たちが見つけたこと

知的障がいのある人とない人の相互の関係は、すべての人の唯一な価値を明らかにすることによって、わたしたちを変化させます。この経験は、この世界で知的障がいのある人とない人 、すべての人が互いにつながっているというしるしです。

2. もっとも大切にすること

2.1 わたしたちは一人ひとりの唯一な価値を大切にします。

2.2 知的障がいのある人は、社会が必要とする洞察力、指導的役割、賜物を有しています。

2.3 わたしたちは、あらゆる違いを受け入れて、共に生きることを大切にします。わたしたちは、コミュニティー生活への招きと挑戦を引き受けます。

2.4 わたしたちは、自然との関わりを大切にします。地球を大切にすることは、互いを大切にすることの一部です。

2.5 こころといのちの意味を探求する旅は、人生を充実させるための土台です。ラルシュはもともとキリスト教の福音に根ざしていて、今もその根を大切にしていますが、同時に、さまざまな伝統に根ざした宗教や文化など、それぞれが信じることによって形作られています。

2.6 わたしたちの基本的価値観は、わたしたちの生活体験に根ざしています。

3. わたしたちが大切にする実践

3.1 わたしたちは、ホーム、職場、その他の集まりの場で、互いに耳を傾け、深くそこにとどまることで、共に生きるための空間を創ります。

3.2 わたしたちは、食事、仕事、日々の日課、活動などを分かち合う時を共にすごします。

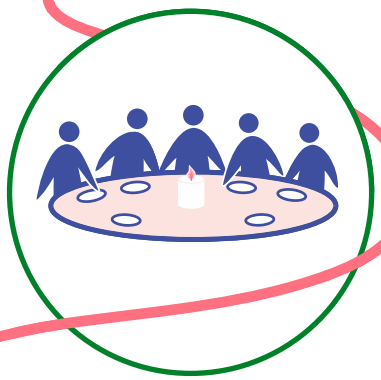
3.3 わたしたちは、対話 、人生の分かち合い 、歓迎、儀式、祈りのときを大切にします。

3.4 わたしたちは、人生の出来事や記念日を覚え、それらをお祝いします

3.5 わたしたちは、共に耳を傾け、多様性を受け入れることによって、責任を果たし、意思決定を行います。

3.6 わたしたちは、コミュニティーの生活と専門的な支援の両方において、専門性を育み互いに学び合うことができるように努力します。コミュニティーでの生活と奉仕は、自分自身とお互いの真実をより知るように招きます。

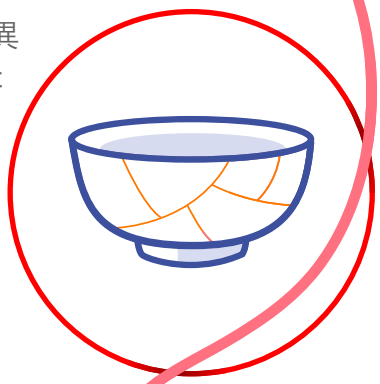
3.7 わたしたちの実践は、わたしたちの価値観と密接に関係し、こころといのちの意味を探求する旅を表現するものです。



4. 連盟：一つでありながら多様

4.1 ラルシュの各コミュニティーは、国際的な連盟に属する他のコミュニティーとのネットワークのうちに存在します。

4.2 ラルシュは、価値観と実践を共有しながらも、異なる文化の中で異なる姿をとります。わたしたちは、コミュニティーが置かれている地域社会と関わっています。



4.3 ラルシュの価値観を生きる仕方は数多くあり、新しいモデルも生まれつつあります。そうした表現は、わたしたちの憲章に根ざしています。

4.4 わたしたちは皆、知的障がいのある人もない人も、人々と手をつなぎ、声を上げ、公平のために活動します。

4.5 わたしたちは、ラルシュの物語が豊かなものであると同時に、そこに破れがあることも認めます。わたしたちは、みずからの経験から学び、より深い誠実さ、説明責任、そして連帯を求めて共に努力します。

4.6 わたしたちは、多様性の中の一体性、脆さの中の強さ、相互依存の中の自由をとおして、調和を見いだします。

5. より持続可能な世界へ向けて

わたしたちは共に、違いを超えた関係を築くことに努力します。これは、わたしたちの共通の故郷であるこの地球を、より愛に満ちた持続可能なものにする生き方・在り方につながります。